

## 「神話」は健在か



中村 聡也

「左派は国に災いを招く存在だ。でも、きょうから全てが変わる」。3月30日、南米ブラジルの首都ブラジリアの国際空港。

まだ日が昇らない午前5時半ごろ、ブラジル国旗に身を包んで到着口にはアンデルソン・クレイトンさん(45)は、その瞬間を待っていた。この日、空港には米国の滞在していた右派ボルソナロ前大統領の3カ月ぶりの帰国を出迎えようと、数百人の支持者が集まっていた。同氏の到着は午前6時40分ごろ。到着口に現れず、別の出口から車で所属する自由党の本部に向かったものの、支持者は国歌などを歌い、帰国を歓迎した。

昨年10月の大統領選で、ボルソナロ氏は左派ルラ大統領に僅差で敗れた。ボルソナロ氏は敗北を正式に認めず、任期切れ直前の同年12月末、米国に出発。滞在中は支持者と交流するなどしていた。

熱狂的な支持者は、ボルソナロ氏のことを「神話」を意味するポルトガル語の「ミト」と呼ぶ。空港でも、自由党の本部前でも、最も耳にしたのは、この呼称だった。ボルソナロ氏は支持者の前で演説しなかったもの

の、党本部の会合では、現政権が「権力の座にいられるのは僅かだ」などと早速、ルラ氏を「口撃」。今後は自由党の「名誉党首」として、政界復帰へ動き出すとみられている。

しかし、ボルソナロ氏を取り巻く状況は厳しい。大統領選のルラ氏の勝利に不満を持つ支持者らによる1月の連邦議会などへの襲撃に関し、当局は扇動などの疑いでボルソナロ氏を捜査。4月上旬には、在任中にサウジアラビア政府から贈られた宝飾品を違法に私物化しようとした疑いで連邦警察が聴取した。ほかにも選挙法違反など複数の疑惑があり、拘束や選挙の立候補資格を失う可能性が指摘されている。米国滞在中に求心力が低下したとの声もある。

それでも、支持は根強い。世論調査機関ダッタフォアリアの3月末の調査では、ルラ派と答えた人(同派に近い人含む)が40%だったのに対し、ボルソナロ派(同)は31%だった。前回調査の昨年12月から数字を下げたが、熱狂的な支持者は今もいる。空港にいたジェニ・ビラルさん(40)は言う。「ボルソナロが拘束されたりしたら、100%抵抗する。共産主義者は出て行け」。昨年の大統領選で政治的分断が深刻化したブラジル。修復の兆しはまだ見えない。